

氏 名 つきの 野 光 博
 学位(専攻分野) 博 士 (医 学)
 学 位 記 番 号 論 医 博 第 1665 号
 学位授与の日付 平成 10 年 9 月 24 日
 学位授与の要件 学 位 規 則 第 4 条 第 2 項 該 当
 学 位 論 文 題 目 慢性閉塞性肺疾患患者の健康関連QOLを決定する生理学的指標に関する研究

(主査)

論文調査委員 教授 中原俊隆 教授 福井次矢 教授 泉 孝英

論 文 内 容 の 要 旨

慢性閉塞性肺疾患患者 (COPD) の管理・治療においてhealth-related quality of life (QOL) の測定および障害されたQOLを指標とした改善の動向が重要な課題となってきた。一般的なQOL測定票を用いた検討では、COPD患者ではQOLは障害されているが、QOLの障害の程度と日常診療で測定されている生理学的な指標との関連は弱いことが指摘されている。一般的なQOL測定票は、多くの疾患を対象に作成されているために、健康人と患者または疾患患者間の比較においては利点を持つが、疾患特異的な項目が少なく、軽度から中等度の患者に対する感度が低いことが指摘されている。一方、疾患特異的なQOL測定票は、その疾患に直接関連する内容を多く含み、より感度が高いことが指摘されている。近年、COPDにおいてもGuyattらの開発した包括的な質問票などを用いることにより疾患特異的なQOLの評価が可能となったが、一般的なQOLと疾患特異的なQOLを同時に評価した報告は少ない。本研究では日本での安定期のCOPD患者のQOLを、代表的な一般的なQOL調査票と疾患特異的なQOL調査票を同時に用いて測定し、肺機能検査を含む生理学な因子を多変量解析法を用いて解析し、QOLに影響を与える生理学な因子に関して検討した。

対象は米国胸部学会の基準を満たす安定期のCOPD132名を用いて横断的な検討を行った。QOLに影響を与える生理学な因子として年齢、体重、喫煙歴、肺機能検査、血液検査を調査した。QOLは、一般的なQOL測定票であるNottingham Health Profile (NHP) 日本語版と疾患特異的なQOL測定票であるChronic Respiratory Disease Questionnaire (CRQ) 日本語版を用いて測定した。

一般的なQOLであるNHPの6領域のスコアと疾患特異的なQOLであるCRQの4領域のスコアは強い相関を示すものの、障害されたQOLに対するNHPによる検出力は弱いものであった。COPDのQOLの評価には、一般的なQOL調査票に加えて疾患特異的なQOL調査票を併用した方が分別能が高いと考えられた。生理学な指標と一般および疾患特異的なQOLに関する検討では、肺活量、1秒量、1秒率、肺拡散能力、累積喫煙量、年齢がQOLの幾つかの領域と弱い相関を認めた。QOLと相関を認めた生理学の因子に対して因子分析を行い、抽出された1秒率、肺拡散能力、肺活量、累積喫煙量、年齢を独立変数とし、QOLの各領域を従属変数とした多変量解析 (ロジスティック分析) を行った。QOLに対する相対危険度 (odds ratio, OR) は、1秒率OR=0.56~0.69、肺拡散能力OR=0.75~0.82、累積喫煙量OR=1.20~1.23、年齢OR=2.13であった。1秒率で示される気流制限は、疾患特異的なQOLに影響を及ぼす因子の一つと考えられたが、一般的なQOLにはほとんど影響を及ぼさないと考えられた。また肺拡散能力は、一般および疾患特異的なQOLの一部に影響を与えたと考えられた。喫煙歴に関しては、現在の喫煙習慣より累積喫煙量が一般および疾患特異的なQOLの一部に影響を与えたと考えられた。年齢に関しては、高齢であるほど一般的なQOLが障害される可能性が高いと考えられた。

本研究により、安定期のCOPDのQOLは、気流制限、肺拡散能力、累積喫煙量、年齢により部分的に影響を受けると考えられた。しかし、これらの客観的な指標でQOLを全て予測することは困難であり、QOLは生理学な指標とは別に一般的なQOL調査票および疾患特異的なQOL調査票を用いて評価する必要があると考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、慢性閉塞性肺疾患患者（COPD）の管理・治療におけるhealth-related quality of life（QOL）を、代表的な一般的なQOL調査票と疾患特異的なQOL調査票を同時に用いて測定し、QOLに影響を与える生理学的な因子に関して検討したものである。

本研究の横断的な検討で、一般的なQOL調査票は障害されたQOLの検出力が弱いことが判明し、COPDのQOLを評価する場合、一般的なQOL調査票に加えて検出力のよい疾患特異的なQOL調査票を併用した方が分別能が高いと考えられた。また多変量解析により、安定期のCOPDのQOLは、気流制限、肺拡散能力、累積喫煙量、年齢により部分的に影響を受けると考えられた。しかし、これらの客観的な指標でQOLを全て予測することは困難であり、QOLは生理学的な指標とは別に一般的なQOL調査票および疾患特異的なQOL調査票を用いて評価する必要があると考えられた。

以上の研究は、安定期のCOPDのQOLに影響を与える生理学的指標を解明したもので、この結果はわが国におけるQOL評価の発展に貢献し、慢性閉塞性肺疾患の治療・管理に寄与するところが多い。

したがって本論文は博士（医学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、本学位授与申請者は、平成10年8月4日実施の論文内容とそれに関連した研究分野並びに学識確認のための試問を受け、合格と認められたものである。